2012年3月15日

AUE News

第 36 号

編集・発行
愛知教育大学広報部会
TEL 0566-26-2738
FAX 0566-26-2500

目　次

● 行事予定(3 月 16 日-31 日)
● トピックス
・第 4 回愛教大アカデミックカフェ
・大学教育改革フォーラム in 東海 2012
・第 5 回愛知教員養成コンソーシアム連絡協議会
・理科実験プレ教員セミナー
・前期日程合格発表
・台北教育大学と学術交流協定を締結
・学生寮新棟竣工披露式
・教員研修留学生修了証書授与と外国人留学生卒業・修了懇談会
・訪問科学実験シンポジウム
・劇団把°　夢卒業公演
・吹奏楽団定期演奏会
・茨城県県南生涯学習センターにおける震災と教育に関する展示
・管弦楽団定期演奏会
・後期日程入学試験
・音楽科卒業・修了演奏会
● お知らせ・報告・投稿
・キャリア支援セミナー
・「俳諧デジタルアーカイブ」公開
・第 4 回ＬＡ防災セミナー
・エコキャンパスプロジェクトの成果報告会
・教育著作権セミナー
・催しもの案内

行事予定(3/16-31)

16 日(金)　教授会（13：30～　第一会議室）
　　個人情報保護委員会（教授会終了後、第二会議室）
19 日(月)　経営協議会（15：00～　ＫＫＲホテル名古屋）
　　顧問会議と経営協議会との合同会議（16：00～　ＫＫＲホテル名古屋）
21 日(水)　評価委員会（10：30～　学長室）
　　教員人事委員会（13：30～　第三会議室）
　　財務委員会（15：30～　第五会議室）
22 日(木)　代議員会（9：00～　第五会議室）
　　共通科目専門委員会（15：00～　第五会議室）
　　安全衛生委員会（15：00～　第一会議室）
23 日(金)　卒業式（10：30～　講堂）
　　大学院修了式（18：30～　第五会議室）
26 日(月)　永年勤続表彰（14：00～　第五会議室）
27 日(火)　役員会（13：00～　学長室）

トピックス

第 4 回愛教大アカデミックカフェ(3/1)

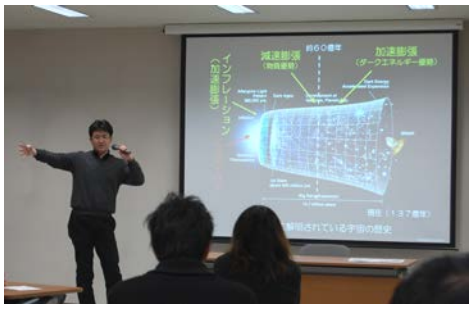
「愛教大アカデミックカフェ」が 3 月 1 日（木）午後 5 時半から，第五会議室で開催された。本学教員による「知の貢献」の一つとして実施。コーヒー，お菓子などを楽しみながら，専門分野をわかりやすく解き明かす「公開授業」で，今回が 4 回目。「2011 年のノーベル物理学賞・

化学賞を解説する」をテーマに住野豊助教（理科教育）が化学賞にちなみ「模様の物理学」，伊東正人准教授（同）が物理学賞について「宇宙を操るダークエネルギーの謎」と題してそれぞれ約 50 分間講演。名古屋，豊田，岡崎市から駆けつけた物理，宇宙ファンの市民や教職員ら約 30 人が聴き入った。

開会に先立ち松田正久学長が「本学は教育大学ですが，さまざまな分野の教員が約 250 人います。市民の皆さんに来ていただき，専門の研究をわかりやすく話してもらうのがこのカフェです。わからないところはどんどん質問してください」とあいさつ。

ノーベル化学賞は不思議な規則性を持った準結晶の発見に贈られた。住野氏は並進や回転の対称性など結晶のパターン，さまざまな模様の認識を通して準結晶とは何かを説明。イスラムのモスク壁面の模様にみられるパターンを紹介し，回転の秩序はあり，同様の模様は現れるが、決して繰り返すことのない秩序ある構造を持ったものが準結晶といえる，と解説した。

物理学賞は超新星観測による宇宙加速膨張の発見に贈られた。伊東氏は受賞者の発見で宇宙全体の 73%が正体不明のダークエネルギーで満たされ，このエネルギーが生み出す反発力は宇宙サイズで効いてくることがわかったとまず，結論。宇宙からの光（スペクトル）から宇宙の温度，年齢，成分などを知ることができる物理学について説明。年代の古い超新星を順次見つけて光度を観測するなどして宇宙の加速度的膨張を発見した経緯を解説した。



両講師には会場からの質問が相次ぎ，講師も丁寧に回答，予定を 30 分近くオーバーして熱気に包まれたままの閉会となった。

大学教育改革フォーラム in 東海 2012（3/3）

3 月 3 日（土）に名古屋大学において「大学教育改革フォーラム in 東海 2012」が開催されました。当日は東海地方だけでなく全国の大学から多数の教職員や関係者の参加がありました。

フォーラムでは最初に東北大学理事の野家啓一氏による基調講演「震災後の日本社会と大学教育」が行われました。引き続き、セッションやポスターセッション、パネルディスカッション等が開催され、大学教育改革についての各大学の取組みや最新の動向についての紹介があり、理解を深めることができました。ポスターセッションには本学からも 6 件の発表があり、本学附属図書館で開催した東日本大震災と教育に関する展示の紹介や日銀グランプリ優秀賞を受賞した本学学生による金融教育に関する提案などが関心を集めていました。パネルディスカッションでは「学生に質の高い体験をどのように与えるか」をテーマに、実践事例の紹介と活発な議論が行われました。

厳しい経済社会状況が続く中で、大学に求められている教育内容も変化しています。特に、野家氏の講演でも取り上げられていましたが、東日本大震災の発生は科学技術（大学）と社会とのコミュニケーションの在り方に、大きな転機を迫っています。持続可能な社

会を形成するために、大学教育において新たなニーズに合わせた改革を推進することが求められています。今後とも大学教育改革フォーラムへ多くの方が参加され、大学教育がさらに発展していくことを願っています。　（社会システム講座准教授　水野英雄）

第 5 回愛知教員養成コンソーシアム連絡協議会(3/5)

愛知県内で小中学校の教員養成を行っている大学，学部や小中学校の教員免許の課程認定を計画している大学などの連携を図る「第5回愛知教員養成コンソーシアム連絡協議会」が3 月5 日（月），本学で開催された。

中央教育審議会の「教員の資質能力向上特別部会」答申の方向性は今後の教員養成を抜本的に改革することにもなり，今回は，中教審の審議状況を再確認し，新年度へ向けた取り組みについて議論を深めるため，本学が関係大学に呼び掛けた。講師に文部科学省大臣官房教育改革調整官の日向信和氏らを招いた。

この日は県内28 大学の教員，事務職員ら計35 人が出席し，本学理事，教職員を合わせて60 人以上が出席した。松田正久学長が「年度内に開催したいと考え，お忙しい中，お集まりいただきました。教員養成をめぐる動きについて確認したい」とあいさつ。

続いて，国立大学改革強化推進事業の一つとして新設された「大学間連携共同教育推進事業」（大学改革推進等補助金予定，30億円）について，協議。この事業は国のプロジェクトで，さまざまな地域・分野での課題に対して，各大学がそれぞれの強みを活かしながら連携・共同して解決にあたる優れた取り組みを支援するとしている。今回は学芸員，学校図書館司書教諭，単位互換を含む連携に関して協議を行った。

講演では，日向氏が「教員の資質向上能力向上方策の見直しについて」をテーマに約50 分講演。これまでの中教審答申を踏まえて，教員の資質能力向上特別部会の審議状況，学校現場が抱える問題の状況，公立小・中学校年齢別教員数，教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策，を説明。教員の養成・採用・研修の各段階についての一体的な検討が求められており，「校長のリーダーシップ・マネジメント能力や教育委員会・大学等の連携・協働がこれまで以上に求められている」とした。

この後，愛知県教育委員会教職員課の後藤清好主査，名古屋市教育委員会教職員課の森和久課長がそれぞれ県，市の教員採用状況について話した。後藤主査は愛知県が求める教師像として，今まで以上に「粘り強さのある人」が求められていることを述べた。また，森課長は「一定の専門性とのびしろを持った学生が必要。大学院では，学校現場で教えること以上のものを学んできてほしい。」と述べた。この後，質疑応答を経て最後に，松田学長が「今後もこのようなシンポジウム開催したい」と述べて約2 時間の会を終了した。

理科実験プレ教員セミナー(3/2-12)

今春から中学校理科教員になる学生を主な対象にした「中学校理科実験プレ教員セミナー」が3 月 2 日（金）～12 日（月）午後 1 時 30 分～3 時 30 分、自然科学棟で開催された。

理科の指導に関する不安を解消するため、中学校教員として知っていた方がよい地学実験、化

学、物理、生物、物理の実験・観察を中心に、実践的な内容で実施、4 年生を中心に大学院生ら計 13 人が参加した。

そのうち 6 日の地学実験講座 B は「地震と防災教育」がテーマ。戸田茂准教授の指導の下、4 年生ら計 8 人が、波動実験用のつるまきばねを使い、ばねの直径の大きさの違いで波動の伝わり方がどう違うかを実験。ばねを何度も動かしながら「直径の小さいばねほど、波動の伝わりが早い」ことを体感。ほかに、光が水の中、空気の中でどう屈折するかも、専用の教材を使って学んだ。参加学生は「4 月からは教壇に立つので、できるだけいろいろな実験に触れておきたい」と話した。

また、今春から小学校教員になる学生を主体にした「理科実験プレ教員セミナー」も 6 日（火）、7 日（水）の午前、午後に各 1 講座、計 4 講座が開催された。今回は、周辺の他大学にも広く参加を呼び掛けたところ、桜花学園大学、名古屋女子大学などからの申し込みもあり、計 25 人が参加し、化学薬品や実験器具の取扱いの基礎や、月の満ち欠け、電気・電流の働きや利用、生物の観察と飼育の仕方などを、熱心に学んだ。

セミナーの取りまとめを担当した岩山勉教授は「他大学では、なかなか小学校教員のための理科実験まで授業で指導できないのが現状。本学でのセミナーに参加してもらうことで、理科実験への不安を払しょくしてもらえたら」と意図を述べた。

前期日程合格発表（3/8）

前期日程入学試験の合格発表が 3 月 8 日（木）午後 1 時から、講堂ロビーで行われた。

入試課の職員が、合格者 641 人の受験番号を張り出した掲示板を公開すると、待ち構えた受験生や保護者が掲示板をじっと見つめ、番号を探した。受験番号を見つけると「やった～！」と思わず飛び上がる受験生や、「おめでとう～！」と抱き合って喜ぶ親子の歓声が響いた。掲示板の番号を携帯電話のカメラで記念に撮影したり、その場で家族に電話やメールをする受験生らの姿もあちこちで見られた。

合格した受験生は「将来は先生になりたいので、大学に入ったら一生懸命勉強したい」。授業のある孫に代わって合格発表を見に来たという女性は「合格しました。感無量です。受験勉強に頑張っていたのを知っていたので、嬉しくて涙が出ました」と喜びを語った。

合格発表は翌日からは、本部棟前の掲示板に移して公開。また、大学ホームページにも、同日午後 1 時過ぎから掲載。

掲示板の横では、生協による新生活の相談コーナーも設置され、合格した受験生に新生活のサポートが行われた。講堂前では、クラブやサークルのユニフォームを着た学生たちが合格者を見つけては声を掛け、勧誘していた。

台北教育大学と学術交流協定を締結（3/8）

3 月 8 日(木)，台湾･台北教育大学の劉瓊淑副学長，翁麗芳教授，陳嘉煥准教授が，学術交流協定調印式に出席のため本学を訪問した。本学到着後，劉副学長らはまず学内を視察。台湾からの交換留学生を案内役に，留学生の寮である国際交流会館，図書館，国際交流センターを見学した。台北教育大学校が台北の都心に位置していることもあり，本学の恵まれた自然環境と広大な

キャンパスに，一行は深い感銘を受けた様子だった。

調印式は，第三会議室で挙行され，本学からは松田正久学長，各理事，国際交流センター長，国際交流センター教員らが出席した。調印に先立ち行われた両大学代表の挨拶で，松田学長は日本とアジア，特に東アジアの国々との連携の重要性に言及。アジアの時代となる 21 世紀を担う人材育成のためにも，両大学間で多岐にわたる協力関係を構築していきたいとの想いを語り，台北教育大学の劉副学長も，今後，両大学がこれまでの経験を共有し，学生･教職員にとり実りある交流に発展させていきたいとの希望を述べて挨拶を締めくくった。続く協定書への調印では，最初に宮川秀俊国際交流センター長から協定の概要説明が行われ，協定内容や学生交流に係る諸条件について双方の合意が確認された。その後，今回所用により欠席した台北教育大学林新發学長が予め署名をした協定書に松田学長が署名，協定が成立した。

また，調印式終了後には音楽教育講座の武本京子教授も駆けつけ，台湾で著名なピアニストでもある劉副学長との間で早速，音楽教育方面における情報交換や交流活動についての話題が持ち上がった。

本学の海外協定校は，今回の台北教育大学で 21 校目。3 月末には，中国･湖南師範大学と協定の締結を控えており，本学の国際交流活動のさらなる発展が期待される。

（教育創造開発機構運営課　国際交流担当　宮内春菜）

学生寮新棟竣工披露式（3/9）

学生寮 F 棟が 2 月末に完成し、竣工披露式が 3 月 9 日（金）午前 10 時から、学生寮管理棟ホールで行われた。

寮生、職員、工事関係者らを前に松田正久学長があいさつ。「学生たちに、ちゃんと学べる環境を提供しようと、法人として費用を工面、皆さんの努力もあって、4 年目にして新しい寮ができました。既存の棟の改装もきちんとやっていきたい。きれいな環境の中で、寮生の皆さんもきちんと学生生活を送ってほしい。今度の新棟は留学生も入るので、ご協力をお願いしたい」と話した。

続いて、渋谷省一施設課長により、新棟の施設概要の説明が行われた。F 棟は鉄筋コンクリート造りの 4 階建て。女子用で全室にバス・トイレ、キッチンスペースなどを備えたワンルームの 32 戸。うち 1 戸は車いすでも利用できる浴室とトイレを備えた寮室。各階ごとに洗濯・乾燥室、コミュニティスペースを設け、外断熱、複層ガラス、LED 照明などを採用して環境や省エネに配慮している。

テープカットの後、1，2 階の部屋を解放して内覧会が行われ、寮生らが真新しい寮室やコミュニティスペースを見て回った。新寮には、今年度改装を行う棟から移る学生、新入生、留学生が入寮する。

2011 年度教員研修留学生修了証書授与式及び外国人留学生卒業・修了懇談会（3/9）

2011 年度教員研修留学生の修了証書授与式が 3 月 9 日（金），第三会議室で開催された。修了者は，エジプト，インドネシア，スーダンからの教員 3 人で，松田正久学長，理事，国際交流センター長，同センター関係教員及び指導教員が出席。学長から，修了証書と記念品が授与さ

れた。

修了生代表のあいさつでは，インドネシアからの留学生アジャルセティワンさんから，留学生活の支援に対する謝辞があり，この1年間を振り返り「この留学での学習で，教師と生徒がより良い関係を築くためには『教師が日頃から，生徒とコミュニケーションを密にして深く関わること』や『良いところは，積極的に誉める』など五つの大切なことを学んだ。日本での経験と成果を今後に活かしたい」と述べ，出席者がうなづく場面も見られた。

式終了後には，出席者全員で記念撮影を行うとともに，1年間の留学生活をねぎらった。

また，この日，午後5時30分からは，大学会館国際交流センター1階ロビーで，外国人留学生卒業・修了懇談会が開催された。留学生との交流を通して日頃からお世話になっている愛知県地域振興部，刈谷市国際交流協会，知立市国際交流協会，アイシン精機株式会社，近隣アパートの家主の方々を来賓として招き，学内関係者を含め，約80人が参加し，今年度をもって卒業・修了する留学生を盛大に祝った。

会の締めにあたり，アイシン精機株式会社の御配慮により，留学生一人一人に送別の花が配られ，タイからの留学生2人が代表で，留学生活における支援に対し謝辞を述べると，参加者から大きな拍手が送られた。

（教育創造開発機構運営課副課長　前川由光）

訪問科学実験シンポジウム（3/10）

訪問科学実験は、学生が自主的・主体的に学校等に出向き，子どもたちと一緒に実験を楽しみ、将来教員を志望する学生の意欲や資質の向上と子どもたちの理科を学ぶ意欲や科学への関心を高めることを目的としています。本年度は、23件の学校等で活動することができ、その総決算として、3月10日(土)に「訪問科学実験シンポジウム」を本部棟第五会議室で開催しました。

本年度実践をさせていただいた学校・団体の方々11人に参加いただき、大学教員等8人、本活動の中心となっている学生執行部のメンバーのうち23人が出席しました。学長からの挨拶によりシンポジウムを開始しました。それに続き、執行部代表からの年間の活動報告、新教材の紹介、実施させていただいた学校の先生方からの実施状況の報告、次期代表からの今後の活動計画報告を行いました。その中でも、新教材の紹介では、「渦のひみつ」「人工イクラを作ろう」「人力発電」「びっくりカイロ」を披露し、貴重なご意見を伺うことができ、大変充実した時間となりました。これらのご意見を今後の活動に生かし、2012年度もより多くの学生・子どもたちが本活動に参加し、楽しむことができるようにしていきたいと考えています。

（訪問科学実験　学生執行部　中原一輝）

劇団把°夢卒業公演（3/10）

本学演劇部、劇団把°夢（ぱむ）の第101回卒業公演が3月10日（土）、11日（日）、名古屋・大須の七ツ寺共同スタジオで行われた。

題目は「きみがいた時間　ぼくのいく時間」（作・成井豊、演出・椎葉星亜）。一番大切な“きみ”を守るため、“ぼく”が 39 年前にタイムスリップする、時空を超えたラブロマンス。今春卒業する 4 年生を中心に 15 人余が出演した。

各日 2 回、計 4 回の公演には、学生や教職員、部員の家族、他大学の学生などが詰めかけた。出演者の熱演、テンポよく目を離せないストーリー展開、工夫された舞台演出などで、2 時間余のステージを披露し、観客を楽しませた。

吹奏楽団定期演奏会（3/10）

本学の吹奏楽団による「第 55 回定期演奏会」が 3 月 10 日（土）午後 5 時 30 分から、安城市民会館サルビアホールで開催された。

吹奏楽団の年に 1 度の定期公演で、今春卒業する 4 年生の団員の卒業演奏も兼ねての演奏会で、開場には本学の学生や教職員をはじめ、他大学の学生、地元市民など約 800 人が訪れた。

第 1 部は学生指揮によるステージ。曽我部暁子さん、高氏南奈さんの指揮で「オリエント急行」「おきなぐさ～宮沢賢治の愛でた花」「A WEEKEND IN NEW YORK」。息の合った演奏で観客を楽しませた。

第 2 部は企画ステージ「幸せのカギ」。幸せを求めて旅する少年が、世界中を旅するうちに身近な幸せに気づくとう物語。ミュージカル仕立ての演出があり、ダンスやアクションも盛り込んで展開。

第 3 部はメーンステージ。同団の音楽監督兼常任指揮者の小松孝文氏の指揮で「バレエ組曲　火の鳥」（L．ストラヴィンスキー）。20 世紀の音楽を切り開いたストラヴィンスキーの挑戦を吹奏楽で表現。キレの良い、若さあふれる演奏で観客を魅了した。

茨城県県南生涯学習センターにおける震災と教育に関する展示（3/10）

茨城県県南生涯学習センター（茨城県土浦市）では，東日本大震災復興支援として，オペラ歌手を茨城，栃木，福島の各避難所へ派遣し，被災者の心の癒し，勇気づけとなる事業を行ってきました。

3 月 10 日（土）にはセンターの多目的ホールにて『第 4 回　東日本大震災復興支援コンサート「大震災・被災者の心に響く天使の歌声」』を約 600 名の参加者にて開催しました。その事業の一環として，愛知教育大学の学生の皆さんの震災に関するレポートを展示させていただきました。茨城県民が，被災地のボランティア活動や今後予想される大規模地震の備えとなるように理解を深めるために，この展示を企画いたしました。参加され

た多くの方に興味を持ってご覧いただくことができました。なお，5 月 20 日（日）には福島県飯舘村の菅野典雄村長の講演，岩手県陸前高田市民等によるシンポジウムを開催しますが，その期間も展示をさせていただきます。

愛知教育大学はじめご協力頂きました皆様に心よりお礼申し上げます。

（茨城県県南生涯学習センター 社会教育推員　松岡祐美）

管弦楽団定期演奏会（3/11）

本学管弦楽団の「第 76 回定期演奏会」が 3 月 11 日（日）午後 6 時 30 分から、名古屋市東区の愛知県芸術劇場コンサートホールで開催された。今回は、客員指揮に同団ＯＢの磯部省吾氏が指揮を務め、700 人余が本格的な演奏に聴き入った。

演奏曲は　R，シューマン「マンフレッド序曲」、Ｃドビュッシー「小組曲」、Ｐ.チャイコフスキー「バレエ　くるみ割り人形」より第 2 幕。可憐で優美なくるみ割り人形の演奏が終わると、客席から「ブラボー！」と賛美の声が上がった。

最後に、アンコール曲にチャイコフスキー「くるみ割り　第一幕より」を演奏し、演奏会を締めくくった。

後期日程入学試験（3/12）

平成 23 年度入学の後期日程入学試験が 3 月 12 日（月）に実施された。

試験開始を前に午前 8 時 30 分から試験本部で試験監督を務める教員を前にあいさつ。「試験が始まったら、監督者の方はすぐに問題を読んで、おかしな点があればすぐに連絡をしてください。何が起こるか分かりませんから、冷静に適切に対応をしてください」と細心の注意を促した。

試験開始の午前 9 時 30 分を前に、8 時ごろから受験生が次々に訪れ、会場入り口の職員に受験票を提示して、それぞれ試験会場に向かった。

後期日程の志願者は 1682 人。実際に受験したのは 762 人で、欠席率は 55%、受験倍率は 3.7 倍。合格発表は 3 月 24 日（土）に講堂で行われる。

音楽科卒業・修了演奏会（3/15）

音楽選修・専攻、音楽教育の卒業・修了演奏会が 3 月 15 日（木）午後 4 時 30 分から、名古屋市中区の名古屋電気文化会館コンサートホールで開催された。

演奏会の前半は学部生 14 人が出演。それぞれに、ピアノ、声楽、器楽の演奏、作曲作品を、後半は大学院を修了する 6 人が、声楽、ピアノの演奏を披露した。多彩な発表は、大学・大学院で学んだ集大成の発表とあって、いずれも晴れの舞台での演奏にふさわしい堂々としたステージで、満席の聴衆から惜しみない拍手が送られた。

お知らせ・報告・投稿

キャリア支援セミナー（報告）

本学の地域連携の一環として、林郁夫知立市長を講師に迎え，学生のキャリア形成支援を目的としたキャリア支援セミナーが 2 月 15 日（水）に開催された。

「市政から見て愛知教育大学の学生に期待するもの」と題した講演では，最初に，市長自身，市職員として就職し，市議，市長とキャリアを重ねた際に考えたこと。市長として考える役所としてのあるべき姿や理想の職員像として，市民の税金を受け取る側としてこれを大切に使い，公平性，高い倫理感や・道徳性が求められることを示された。また，最近の主な取り組みやまちづくりの方向性等，市長として実現したいことを熱く語られた。

最後に，これから社会に出ようとする本学学生に期待することとして，「読書の習慣」「多様な環境に身を置くこと」「人間として当然のことを着実に実行する力」「思いやりの心」等々を示された。

これらの事柄は，さまざまな職業を目指す学生たちにとって進路を考える上で参考になったであろう。とりわけ，公務員を志す学生はその意志を固めた日になったかもしれない。

2 月 22 日（水）には，神谷学安城市長を講師に迎え第 2 回セミナーを開催した。

「市政を通じて地方公務委員を知る」と題した講演では，多彩な部局で活躍する本学卒業生の姿を紹介しながら，市役所がいかに幅広い仕事を担当しているかについて説明された。

次いで，神谷市長が目指す「環境首都・安城市」のさまざまな行政運営の中心に「環境」があることについての各種の取り組みの紹介では，参加者の共感を得られたようだった。

最後に，日本やまちの未来を創るのは誰か？リードするのは市長や議員。それを支えるのは市の職員。実行できるかは市民である皆さんの意志によると語りかけ，地域主権の担い手である学生に対し，大きな期待を寄せられた。

今回のセミナーは，2 月中旬開催と，3 年生を除く学生が学期末休業中の開催であったが，それぞれ約 50 人の学生が参加し，公務員や進路について考える契機になった。

（キャリア支援課長　三浦孝史）

「俳諧デジタルアーカイブ」公開（お知らせ）

附属図書館では，2011 年度学長裁量経費により作成した「俳諧一枚摺デジタルアーカイブ」を 2 月 27 日（月）に公開しました。

（http://www.auelib.aichi-edu.ac.jp/lib/ichimaizuri/index.html）

俳諧一枚摺は，一枚の用紙へ俳諧に関する句や絵が印刷されているもので，江戸時代から明治時代まで愛好者の間で作成されていました。今回公開した一枚摺は国語教育講座から図書館へ返却された俳諧資料の中から一部をデジタル化し，故岡本勝先生が作成された目録情報をもとに，本学の卒業生で愛知淑徳大学の早川由美先生にご協力いただき公開に至ったものです。当館で所蔵資料の電子公開は初めての試みです。

この俳諧デジタルアーカイブは作者，年代，内容の三つの項目から検索が可能で，画像を拡大や回転して

閲覧することもできます。また早川先生による解説によって，一枚摺コレクションの概要を理解することが可能です。

今回の公開が社会に貴重な資料の存在を発信し，学生や研究者の学術研究に役立つことはもとより，ひいては多くの一般の方々に閲覧され，当時の文化や俳諧に興味を持っていただくことを期待しています。皆様ぜひ「俳諧一枚摺データベース」をご覧ください。

（情報図書課目録情報担当　島村瑞穂）

第 4 回 LA 防災セミナー

2 月 27 日(月)、第 1 生協 2 階ハンズにおいて、「第 4 回ＬＡ防災セミナー」が開催された。これは、文部科学省特別経費「教員養成系大学の特色を活かしたリベラル・アーツ型教育の構築に向けた取組」の一環として実施している。3 月 11 日に筆者が東日本の大学で被災したことが契機となり、6 月にプロジェクト代表の大澤秀介教授の提案で立ち上げられた。

今回は、星博幸准教授（理科教育）による「自然災害と防災に関連した授業の実践－愛教大での事例紹介－」と題した講演がなされた。

冒頭のあいさつで大澤教授は、「東海地震に備えて教員養成系大学の学生に防災教育を行うことが必要である」旨を説明。

参加者のうち、教授 3 人が高校で地学を履修した学習歴があったが、星准教授は、4 月から新指導要領の下で使用する高校地学の教科書や、大学の授業で用いているプリントを配布し、地学の中で扱う自然災害には地震・地盤・火山・気象災害など様々であるが、高校での地学離れが著しいため、大学で教員志望の学生たちに教えないといけないことを力説した。講義内容の他、活断層での実習のスライドや、液状化実験の道具や火山灰などを提示された。最後に、愛教大の防災教育で考慮すべき点として、「被害を最小に抑え、自然災害とうまく向き合っていくために、自然災害・防災に関する小中高でのきちんとした教育が必要。これは教師の力量次第である」と述べた。

途中で司会により、全員参加型のクイズ形式の、地学教育に関する意見交換が行われた。地学教育は防災のために必要であるというのが参加者の総意であった。理科教育の高橋真聡教授は、地学だけでなく、物理の履修者も減少していることの問題を指摘された。

今回は、学生や市民の参加があり、活発な意見交換がなされたこと、及び防災教育において高校地学や地球科学という学問が重要な役割を果たすことを提示できたことが大きな成果であった。

（リベラル・アーツプロジェクト研究員　内山弘美）

エコキャンパスプロジェクトの成果報告会（報告）

昨年度、特別経費「環境研究と環境教育の融合によるエコキャンパスづくり」（通称エコプロジェクト）が概算要求で認められました。学長の指揮のもと、12 人の本学教員でプロジェクトチームを立ち上げ、4 年計画の 1 年目が本年度スタートしました。本学で独自に行われてきた環境研究と環境教育をさらに推進し、それらの成果を融合することで①本学における省エネを推進する②独創的な環境調和型科学・技術を創出する③環境を考え行動する教員・社会人を育成するを目的とした事業です。今年度の成果報告会を、外部から 1 人と本学から 2 人の評価委員を交えて、2 月 29 日（水）に開催しました。当日は、ナノ、音、植物、化学物質、薄膜などの科学・技術創出のための研究、壁面緑化、竹、材木などの調査・試験研究、さらに、授業改善、学習効果の評価、環境教育教材の開発、地域や教員への支援、附属学校との連携などの環境教育研究と実践といっ

た多岐にわたる取り組みの状況が報告されました。評価委員からの評価を踏まえ、次年度に向けた課題を現在検討中です。詳細は、プロジェクトのホームページ（http://www.eco-campus.aichi-edu.ac.jp/）をご覧ください。ご意見、ご要望がありましたら保健環境センターまでお願いします。　（エコキャンパスプロジェクト　菅沼教生）

教育著作権セミナー（報告）

2 月 29 日（水）に，放送大学 ICT 活用・遠隔教育センターの尾崎史郎教授（元文化庁著作権課マルチメディア著作権室長）を講師に迎え，「教育著作権セミナー」を開催しました。学内の教員・事務職員・学生をはじめ，学外からも小学校教員など 38 人が参加しました。

尾崎教授は，著作物とは何か，著作者にはどのような権利があるか，権利が制限されるのはどのような場合か等，教育や研究に関わる著作権の基本を分かりやすく解説され，参加者は熱心に耳を傾けました。

講義後の質疑応答では，教科書のリライト文の作成，パブリックアートの利用，学会での口頭発表の録音等，著作権に関するさまざまな質問が参加者より出され，尾崎教授がそれぞれに明快に回答されました。セミナーの終了後も，個別質問を行うために多くの参加者が残って列をなし，著作権への関心の高さと著作権に関する疑問を解消する場の必要性を感じさせられました。アンケートでは参加者より「参考になった」「今後に役立つ」などの感想が寄せられ，有意義なセミナーとなりました。

（情報図書課　電子資料担当　古田紀子）

催しもの案内

◆第 1 回広報セミナー

3 月 26 日（月）10：30～12：00

本部棟 3 階　第五会議室

広報について考えるセミナーの第 1 回のテーマは「語る・伝える・つなぐ　ことばを見直す」と題して、ＮＨＫアナウンサーの村竹勝司氏を講師に迎え、“言葉のプロ”の立場から言葉やコミュニケーションについて語ってもらう。

対象：教職員、ことばやコミュニケーションに関心のある院生・学生

問い合わせ：秘書広報課　広報室　小林　℡０５６６－２６－２７３８

E-mail:kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp

編集後記

2 月後半から 3 月前半にかけて，学生による発表の催しが相次いで開催されました。卒展では学生・院生の丹精込めた作品に感心させられ，音楽や演劇の定期公演や卒業・修了演奏会では日頃の練習の成果を堂々と発表する姿に，たくましさと可能性を垣間見て，こちらも元気をもらいました。このキャンパスを舞台に，たくさんの学生たちが成長して巣立っていく姿を目にするこの時期は，取材に奔走しながらも，広報スタッフとしては嬉しいひとときでもあります。（K）

投稿のお願い

学内外の出来事（教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など）に関するニュースの提供をお待ちしております。

メール：kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp　編集責任者：総務担当理事　折出　健二